

【2024 SyDE 産官学協働研修 実施報告】2024.6.26~2024.7.1

本研修は株式会社オオバの実施するインターンシップに参加し、能登半島地震における被災現況調査業務に係る資料集計・分析に関わることで、復興まちづくりにおける民間業務の果たす役割について学ぶとともに、被災地における実態と課題についての知見を得ることを目的としたものである。

研修の内容について、本研修は事前調査と資料作成業務の2段階に応じて行った。事前調査ではインターンシップ研修に先立ち、業務対象地域の基礎的な情報及び被災状況データの収集を行った。続く資料作成業務では実際にインターンシップ研修に参加し、現地調査において収集されたデータの集計及び分析業務を行った。

本研修の成果として、大きく二点の成果を得た。一点目として、民間業務における復興まちづくりの策定プロセスについて学ぶことができた。重点的に復興まちづくりを検討すべきエリアの資料作成業務に関わることで、従前の土地利用・土地所有と被災状況を踏まえ、複数案について各条件を比較し、最終的に回答案を決定するまでの手法を知ることができた。二点目として、能登半島地震における現状での復興に関する実態と課題を把握することができた。今回は特に中心市街地と沿岸部に点在する集落の二つについて、それぞれにおける計画上の現況と想定される問題について様々な知見を得ることができた。

以上のとおり、今回のインターンシップにおいては事業手法の踏み込んだ検討までは参加しなかったが、その前提となる問題意識については様々な側面から知ることができた。そして、これらの知見は極言すれば平時も災害時もスピードの差はあれ変わらない課題であり、都市をそこで暮らす人々にとって持続可能にするという問題に帰着すると想像できる。その観点から、本研修は現在行っている研究について直接的に多くの論点を提供し、今後の分析に大きく寄与するものであった。

山梨裕太（工学研究科・都市建築学専攻・D1）

